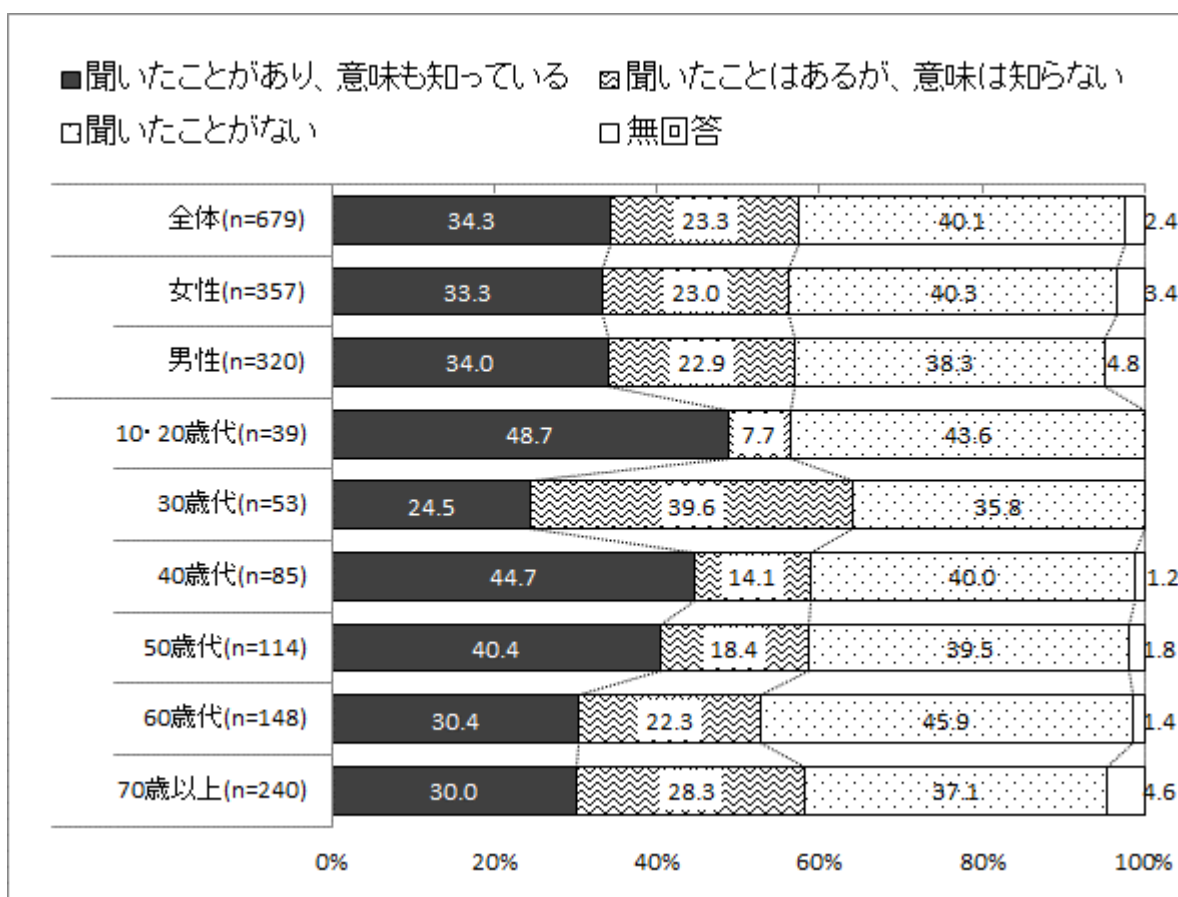


□ 仕事と生活の調和について

問10 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度について（令和3年新規調査項目）
「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っていますか。当
てはまる番号を記入してください。

⇒ 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の意味を知っている方は、全体の
約34%

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度について（全体・性別・年代別） 単位
（%）



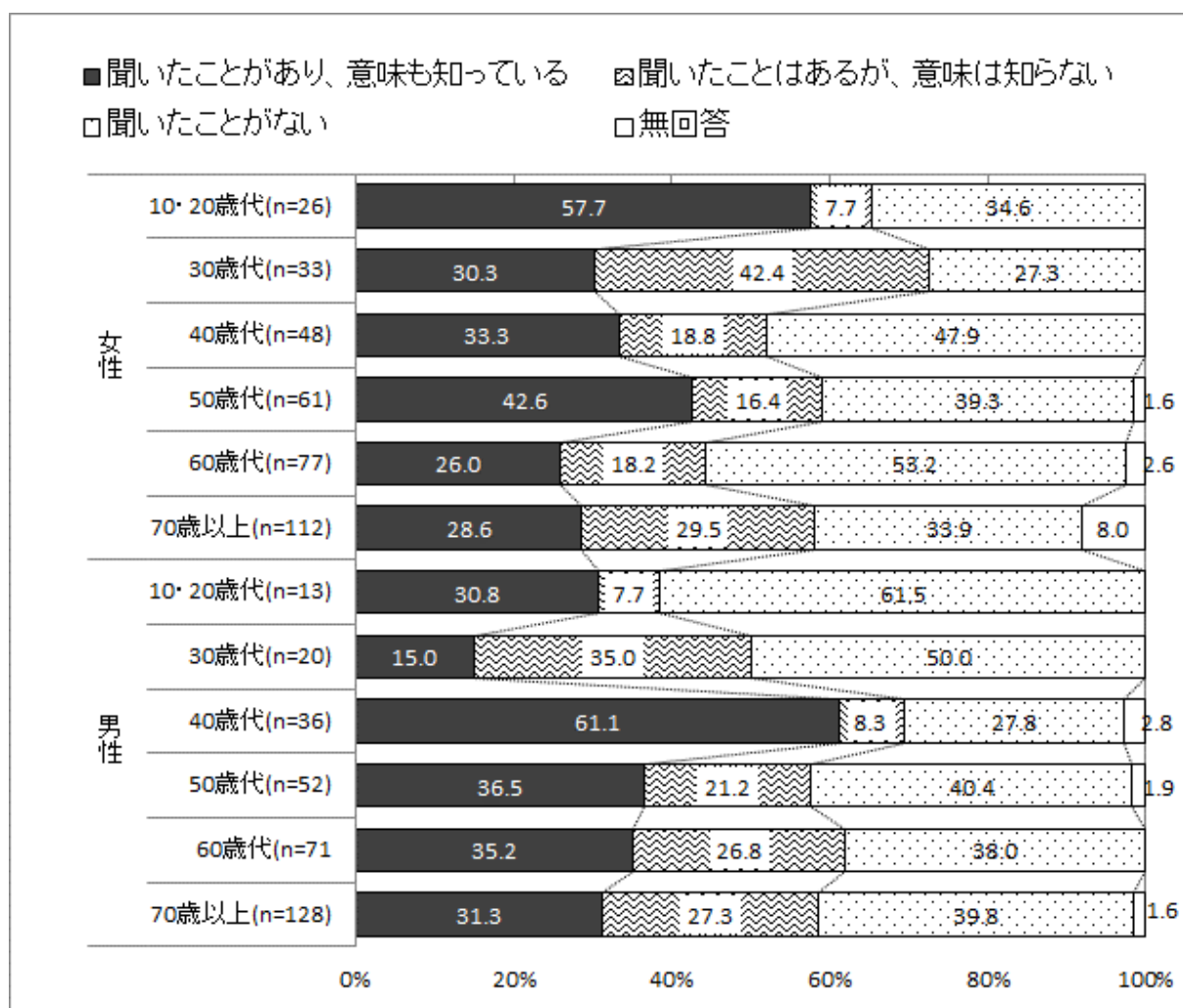
「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉の意味について聞いたところ、全体では、「聞いたことがあり、意味も知っている」の割合が34.3%、「聞いたことがない」が40.1%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が23.3%となっている。

性別で見ると、女性・男性とも全体と同様の傾向となっている。

年代別で見ると、10・20歳代、40歳代、50歳代で40%を超える認知度があったが、各年代にわたり「聞いたことがない」の割合も40%前後と高い傾向となっている。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度について（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、女性の10・20歳代及び男性の40歳代で60%前後の高い認知度となっているが、「聞いたことがない」「聞いたことはあるが、意味は知らない」の割合は、女性・男性ともに多くの年代で高い傾向となっている。

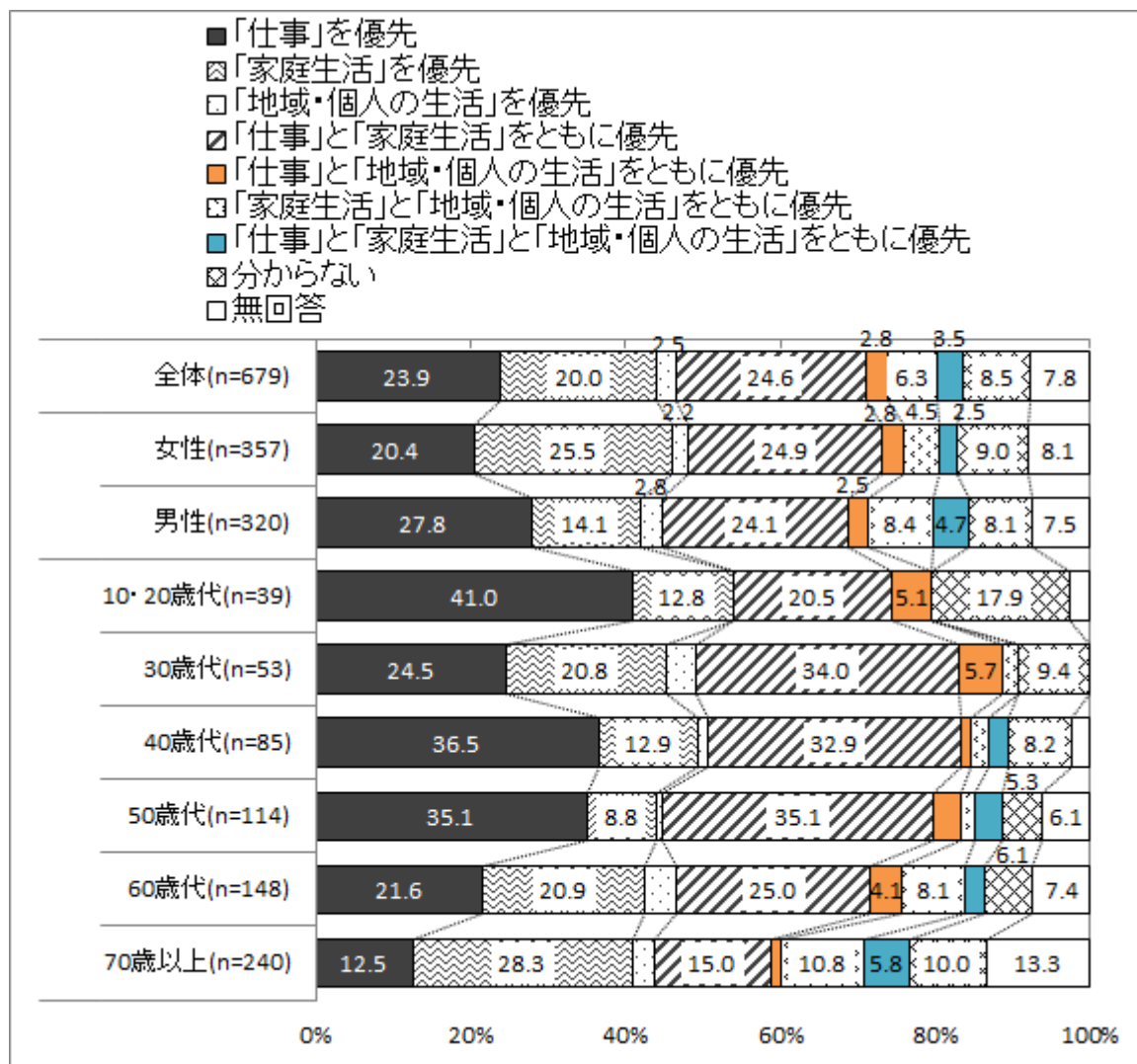
問11 生活の中における優先度について

あなたの生活の中で何を優先するのか、希望に最も近いものはどれですか。また、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。1つだけ選んで○をつけてください。

① 現実

⇒ 現実では、「仕事と家庭生活」が約25%、「仕事」が約24%

生活の中における優先度について【現実】（全体・性別・年代別） 単位（%）



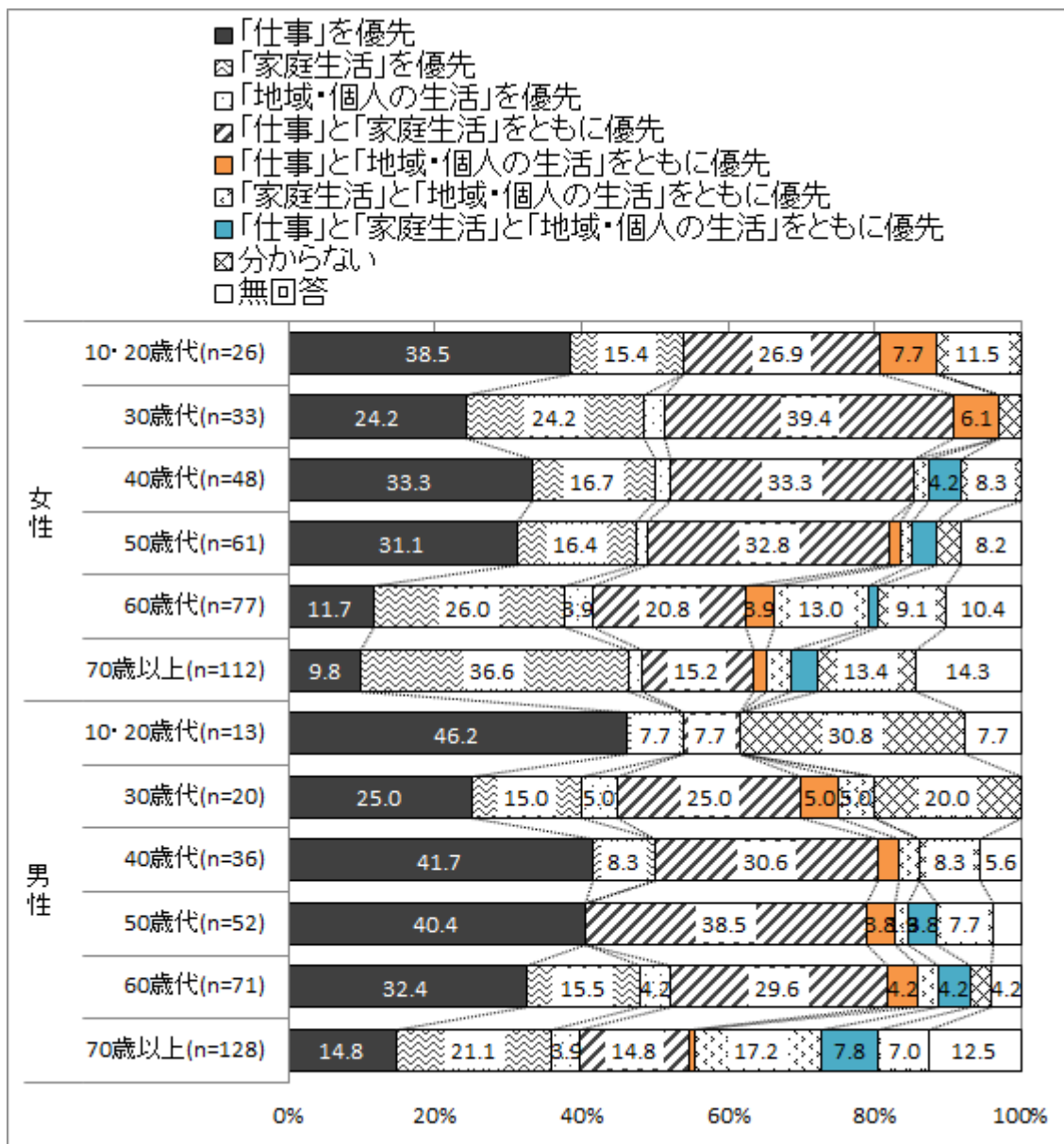
生活の中において何を優先するのか、現実にもっと近いものについて聞いたところ、全体では、「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が24.6%「仕事を優先」が23.9%、次いで「家庭生活を優先」が20.0%と続いている。

性別で見ると、女性では「家庭生活を優先」の25.5%、男性では「仕事を優先」の27.8%が最も高い割合となっている。また、女性・男性とも「仕事と家庭生活をともに優先」が2番目に多い割合となっている。

年代別で見ると、10・20歳代と40歳代では「仕事を優先」の割合が、30歳代と60歳代では「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が高くなっている。50歳代では「仕事を優先」と「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が等しく、70歳以上では「家庭生活を優先」の割合が高くなっている。

生活の中における優先度について【現実】（性×年代別）

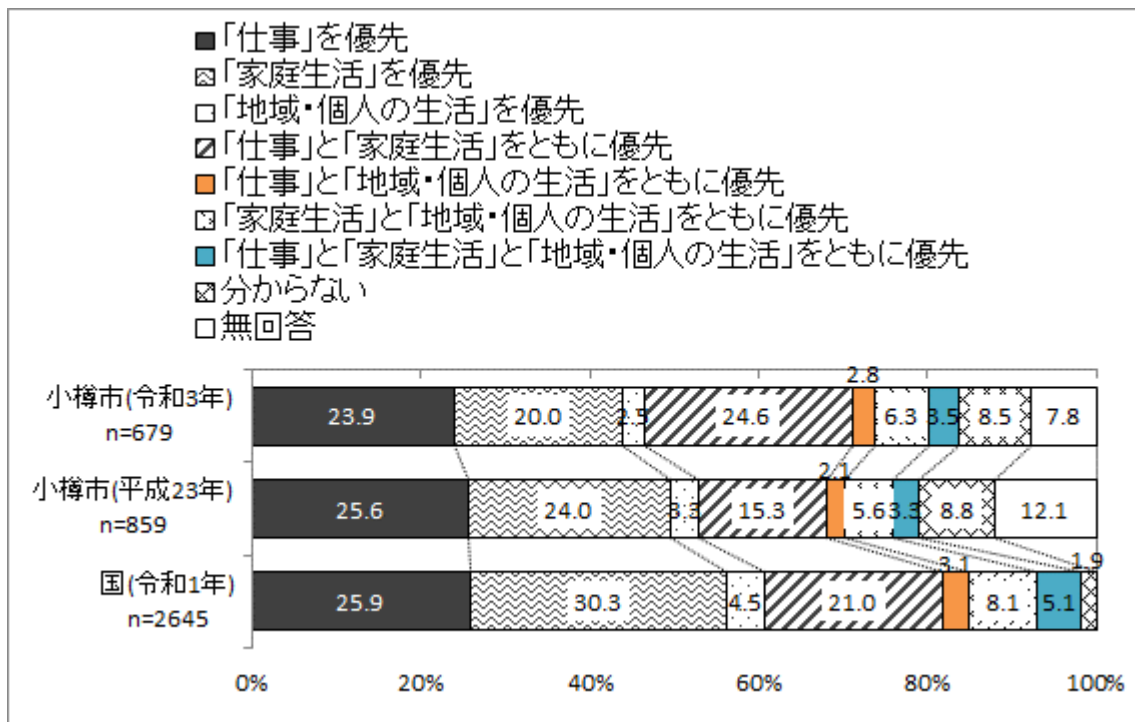
単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、10・20歳代で「仕事を優先」の割合が高いが、30歳代～50歳代では「仕事と家庭生活をともに優先」する傾向が見られ、60歳以上は「家庭生活を優先」の割合が高い傾向となっている。

男性では、10・20歳代～60歳代の各年代で「仕事を優先」の割合が高くなっているが、30歳代～60歳代では「仕事と家庭生活をともに優先」の割合も高い傾向にある。また、70歳以上では「家庭生活を優先」の割合が高くなっている。

生活の中における優先度について【現実】（前回調査・国との比較） 単位（％）



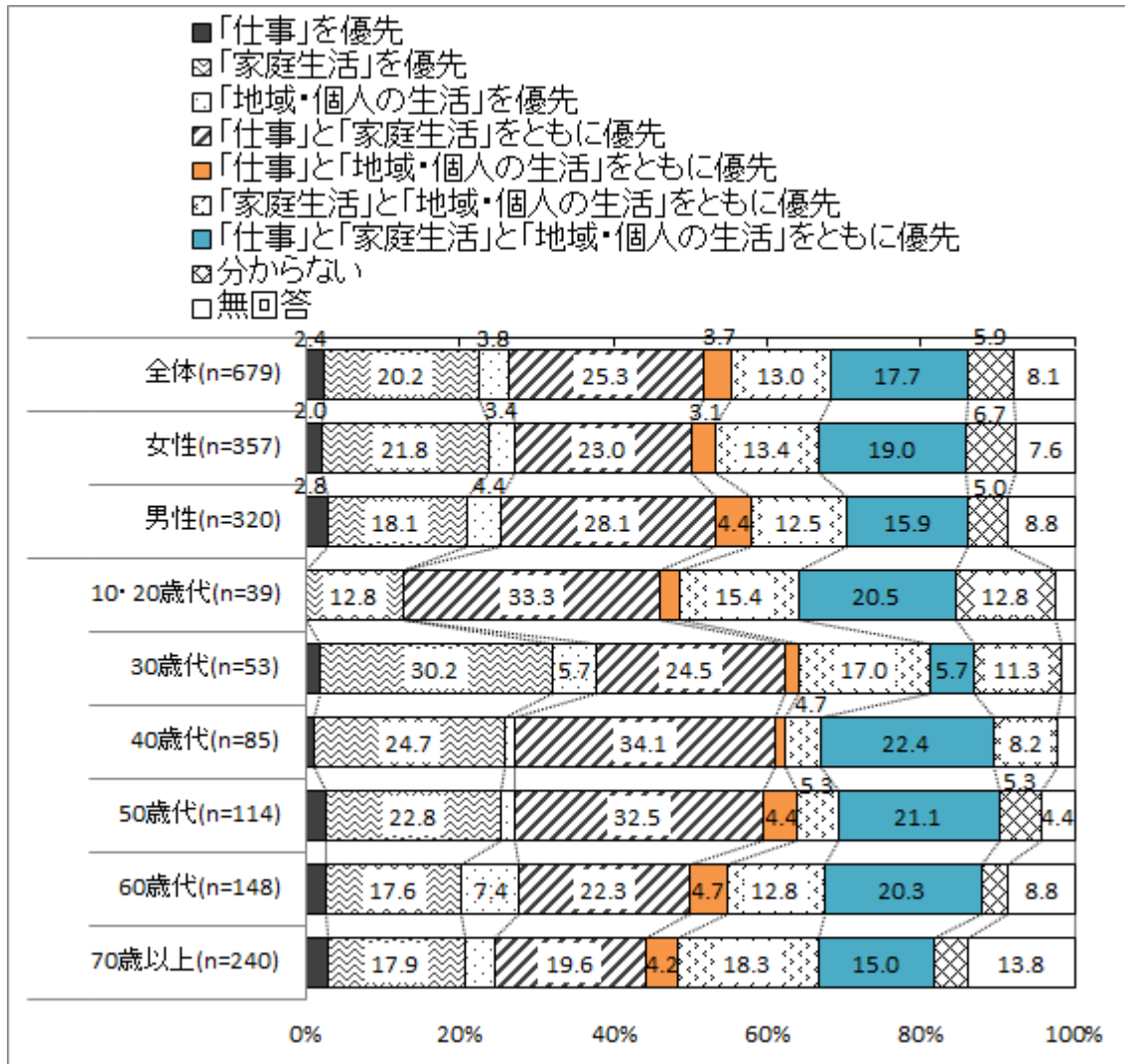
小樽市の前回調査と比較すると、「仕事を優先」「家庭生活を優先」の割合がやや減少し、「仕事と家庭生活をともに優先」が増加している。

国の調査と比較すると、「仕事を優先」の割合はほぼ同じで、「家庭生活を優先」は国の方が高く、「仕事と家庭生活をともに優先」は小樽市の方が高くなっている。

② 希望

⇒ 希望では、「仕事と家庭生活」が約25%、「家庭生活」が約20%

生活の中における優先度について【希望】（全体・性別・年代別） 単位（%）



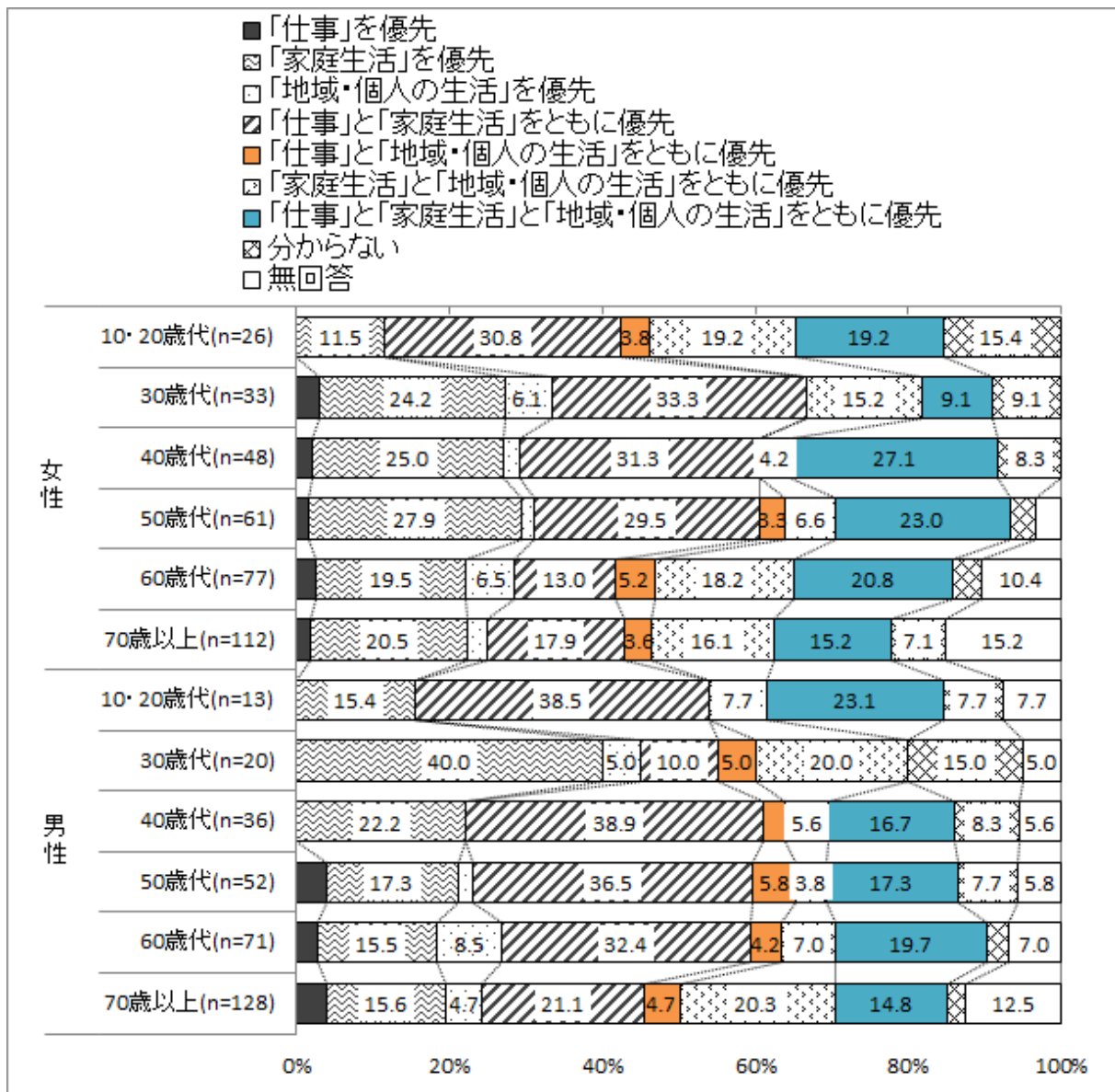
生活の中において何を優先するのか、希望に最も近いものについて聞いたところ、全体では、「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が25.3%、次いで「家庭生活を優先」が20.2%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が17.7%、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が13.0%と続いている。

性別で見ると、男女共に「仕事と家庭生活をともに優先」「家庭生活を優先」の割合が高くなっている。

年代別で見ると、「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が10・20歳代及び40歳以上で高い傾向にあり、30歳代では「家庭生活を優先」の割合が最も高くなっている。

生活の中における優先度について【希望】（性×年代別）

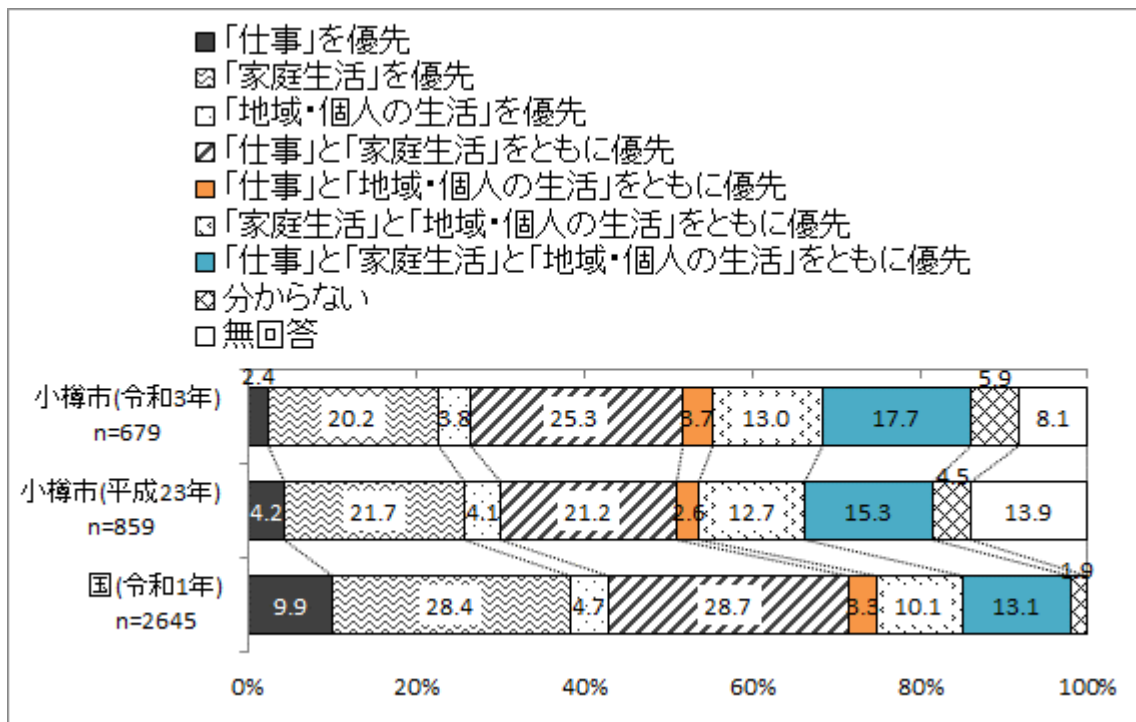
単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、60歳代で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が、70歳以上で「家庭生活を優先」の割合が高くなっているほかは、「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が高い傾向となっている。

男性では、30歳代で「家庭生活を優先」が40.0%となっているほかは、「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が高い傾向となっている。

生活の中における優先度について【希望】（前回調査・国と比較） 単位（％）



小樽市の前回調査と比較すると、各項目の割合に大きな変化は見られない。

国と比較すると、「家庭生活を優先」「仕事と家庭生活をともに優先」の割合は、小樽市の方が低くなっているが、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」では、小樽市の方が高くなっている。

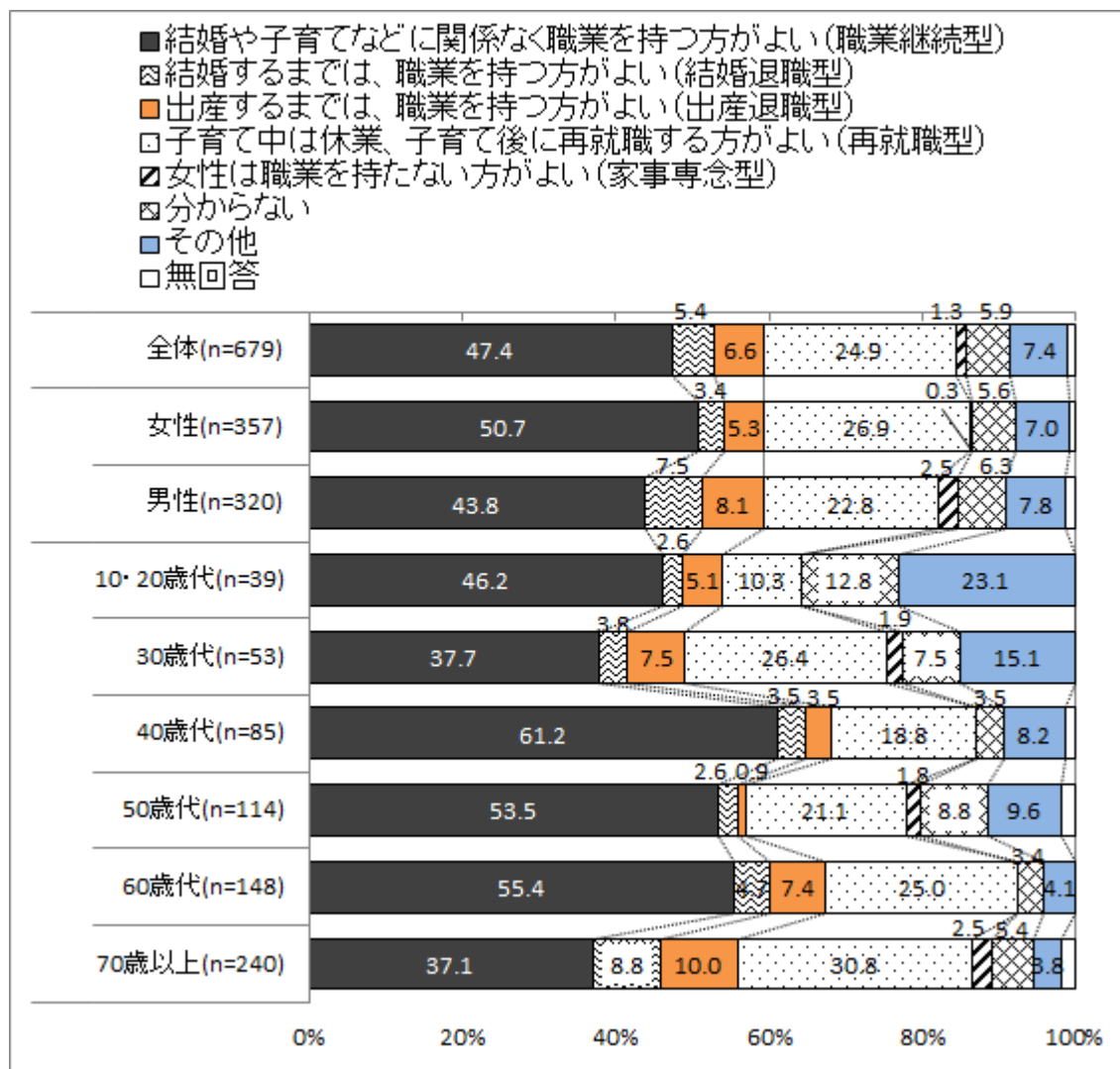
問12 女性が職業を持つことについて

女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

⇒ 1位「職業継続型」約47%、2位「再就職型」約25%

女性が職業を持つことについて（全体・性別・年代別）

単位（%）



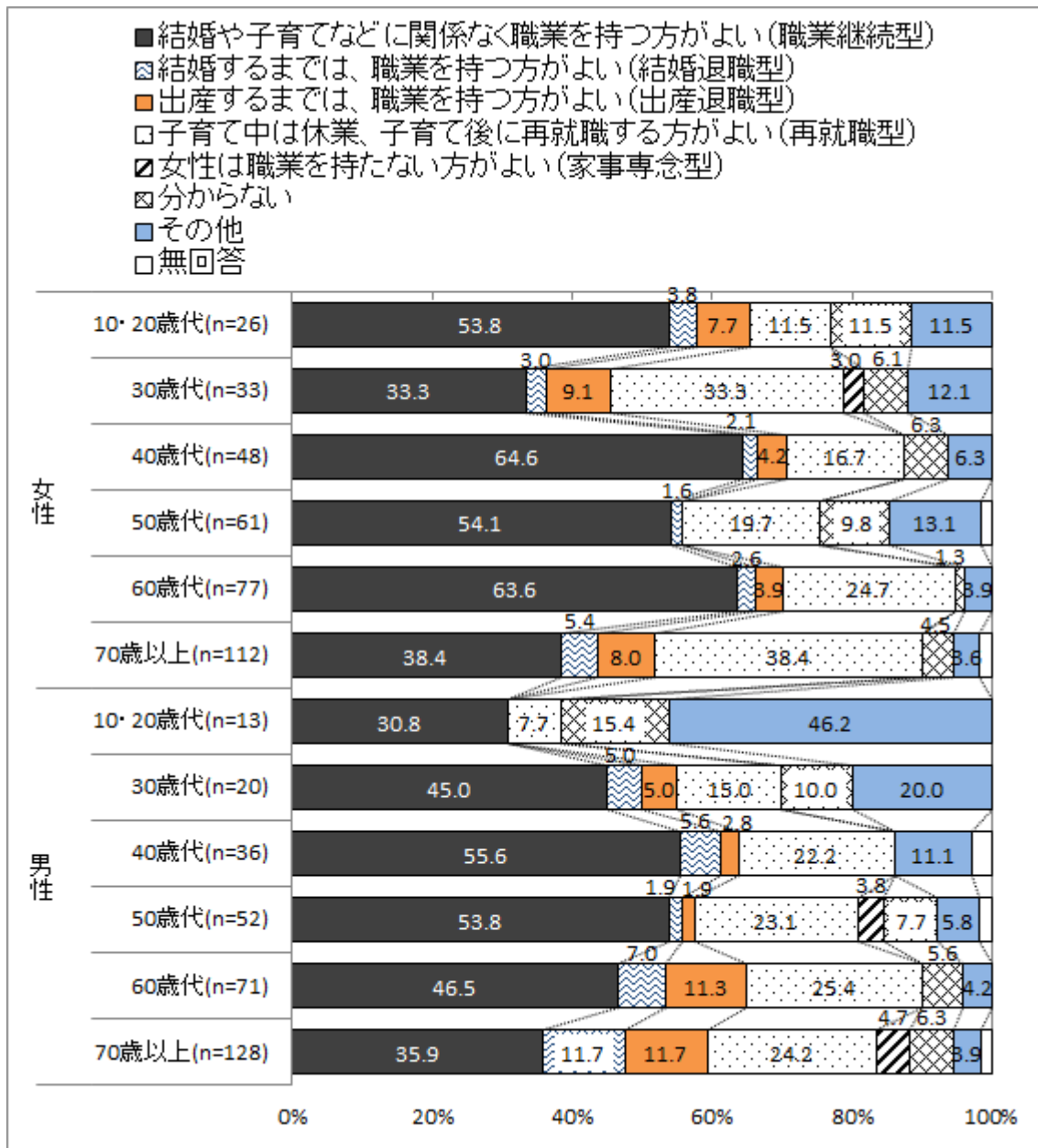
女性が職業を持つことについて聞いたところ、全体では、「職業継続型」の割合が47.4%、次いで「再就職型」が24.9%となっている。

性別で見ると、女性は「職業継続型」「再就職型」の割合がそれぞれ50.7%、26.9%となり、男性よりもそれぞれ6.9ポイント、4.1ポイント高くなっている。

年代別で見ると、全ての年代で「職業継続型」の割合が最も高くなっており、特に、40歳代～60歳代では50%を超えている。

女性が職業を持つことについて（性×年代別）

単位（％）

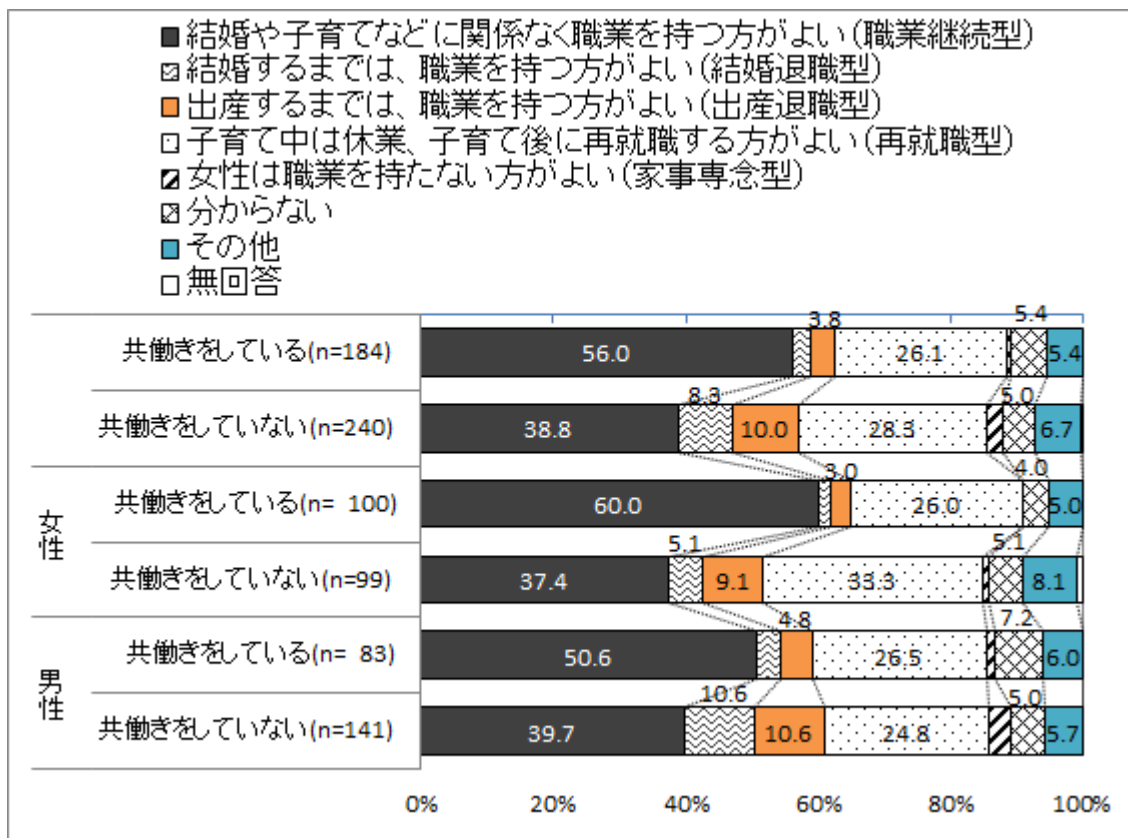


性×年代別で見ると、女性では、「職業継続型」の割合が30歳代と70歳以上を除く各年代で50%を超え、40歳代と60歳代では60%を超えている。

男性では、「職業継続型」の割合が30歳代以上の年代で最も高い割合となっており、40歳代と50歳代では50%を超えている。

女性が職業を持つことについて（共働き別・性×共働き別）

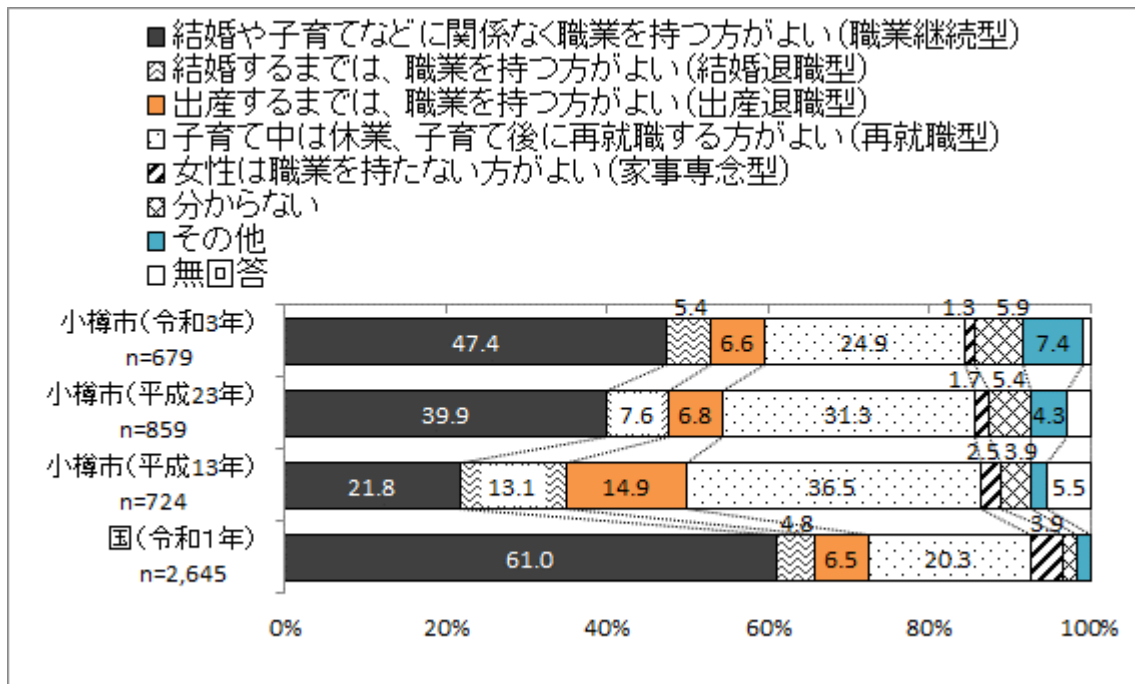
単位（％）



共働き別で見ると、いずれも「職業継続型」の割合が高いが、共働きをしている人の方が共働きをしていない人よりも17.2ポイント高くなっている。

性×共働き別で見ると、いずれも「職業継続型」の割合が高いが、共働きをしている人の方が女性も男性も高い傾向にあり、特に女性は60.0%の割合となっている。

女性が職業を持つことについて（過去の調査・北海道・国との比較） 単位（％）



小樽市の過去の調査と比較すると、「職業継続型」の割合が増加傾向にあり、「結婚退職型」「出産退職型」「再就職型」が減少傾向となっている。

国の調査と比較すると、「職業継続型」の国の割合は61.0%となっており、小樽市（令和3年）より13.6ポイント高くなっている。

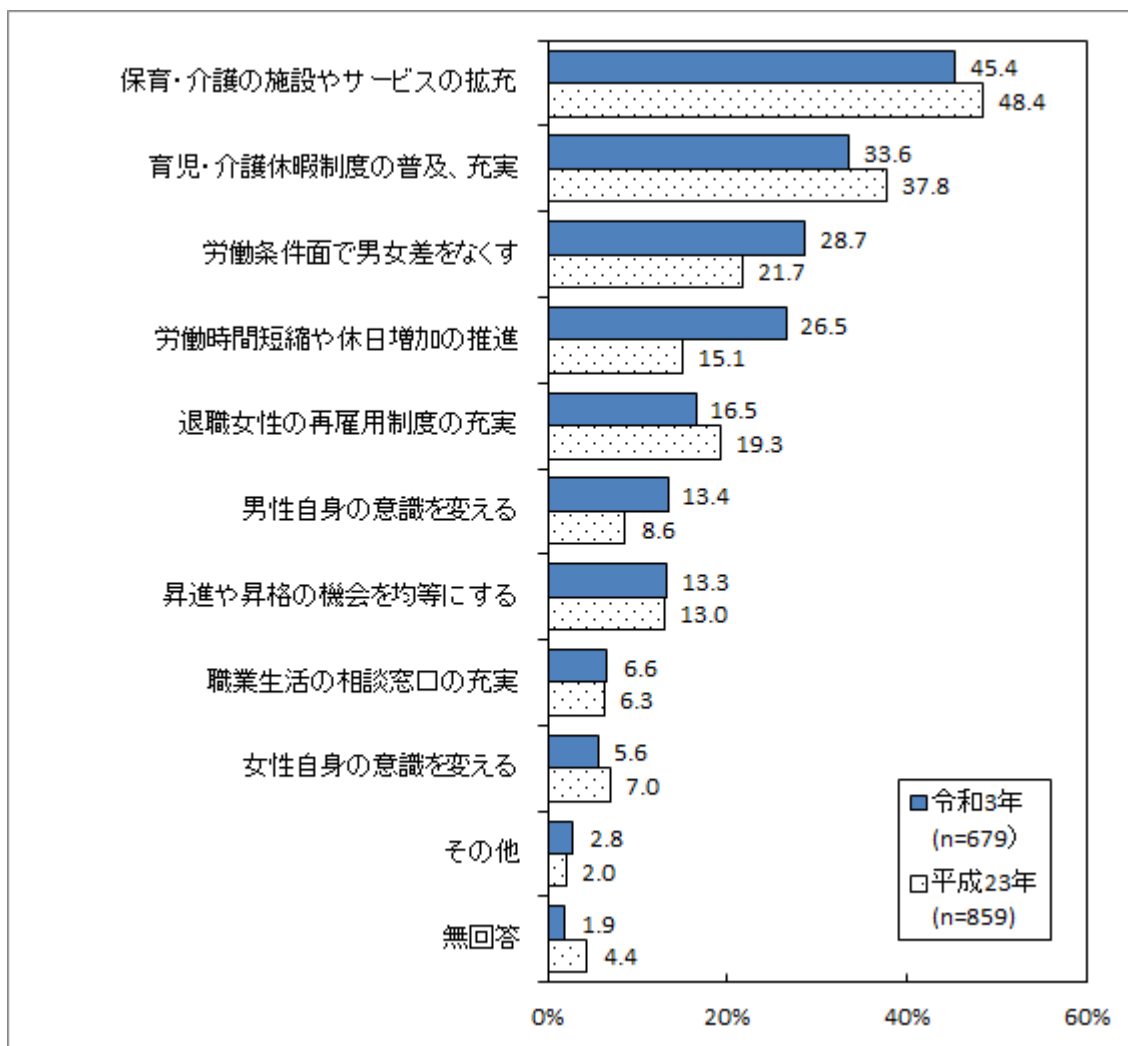
問13 女性が働き続けるための条件整備について（複数回答）

女性が働き続けるため、どのような条件整備が必要だと思いますか。当てはまる番号を2つまで選んで記入してください。

⇒ 「保育・介護の施設やサービスの拡充」「育児・介護休暇制度の普及、充実」が上位。

女性が働き続けるための条件整備について（全体）

単位（％）



（複数回答）

女性が働き続けるための条件整備について聞いたところ、「保育・介護の施設やサービスの拡充」の割合が45.4%、次いで、「育児・介護休暇制度の普及、充実」が33.6%、「労働条件面で男女差をなくす」が28.7%と続いている。

前回調査と比較すると、上位3位の順位は変わっていないが、「労働時間短縮や休日増加の推進」の割合が増加し、順位を上げている。

女性が働き続けるための条件整備について（全体・性別・年代別） 単位（％）

	1位	2位	3位	4位	5位		
全体	保育・介護の施設やサービスの拡充 45.4	育児・介護休暇制度の普及、充実 33.6	労働条件面で男女差をなくす 28.7	労働時間短縮や休日増加の推進 26.5	退職女性の再雇用制度の充実 16.5		
女性	保育・介護の施設やサービスの拡充 43.7	育児・介護休暇制度の普及、充実 32.8	労働条件面で男女差をなくす 28.9	労働時間短縮や休日増加の推進 28.0	男性自身の意識を変える 17.1		
男性	保育・介護の施設やサービスの拡充 47.2	育児・介護休暇制度の普及、充実 34.7	労働条件面で男女差をなくす 28.4	労働時間短縮や休日増加の推進 24.7	退職女性の再雇用制度の充実 16.9		
年代別	20歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	労働条件面で男女差をなくす 各17.9	
		51.3	43.6	25.6			
	30歳代	労働時間短縮や休日増加の推進	育児・介護休暇制度の普及、充実	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働条件面で男女差をなくす	男性自身の意識を変える	各20.8
		43.4	39.6	35.8			
	40歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働時間短縮や休日増加の推進	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働条件面で男女差をなくす	男性自身の意識を変える	17.6
		37.6	36.5	30.6	18.8		
	50歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働条件面で男女差をなくす	労働時間短縮や休日増加の推進	育児・介護休暇制度の普及、充実	退職女性の再雇用制度の充実	16.7
		43.9	29.8	26.3	25.4		
	60歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働条件面で男女差をなくす	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	18.2
		57.4	38.5	31.8	20.9		
	70歳以上	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働条件面で男女差をなくす	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	16.3
		42.5	33.3	32.5	22.9		

（複数回答）

性別で見ると、男女による違いはあまり見られないが、女性の5位が「男性自身の意識を変える」に対し、男性は「退職女性の再雇用制度の充実」となっている。

年代別で見ると、30歳代を除いた全世代で「保育・介護の施設やサービスの拡充」、30歳代では「労働時間短縮や休日増加の推進」の割合が最も高くなっている。

女性が働き続けるための条件整備について（性×年代別）

単位（％）

		1位	2位	3位	4位	5位
女性	10・20歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働時間短縮や休日増加の推進	労働条件面で男女差をなくす	退職女性の再雇用制度の充実
		各46.2		38.5	23.1	11.5
	30歳代	労働時間短縮や休日増加の推進	育児・介護休暇制度の普及、充実	保育・介護の施設やサービスの拡充	男性自身の意識を変える	労働条件面で男女差をなくす
		各36.4		33.3	27.3	24.2
	40歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働時間短縮や休日増加の推進	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働条件面で男女差をなくす	昇進や昇格の機会を均等にする
		37.5	39.6	29.2	22.9	20.8
50歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働時間短縮や休日増加の推進	労働条件面で男女差をなくす	育児・介護休暇制度の普及、充実	男性自身の意識を変える	
	44.3	29.5	27.9	各21.3		
60歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働条件面で男女差をなくす	退職女性の再雇用制度の充実	労働時間短縮や休日増加の推進	
	55.8	37.7	31.2	各18.2		
70歳以上	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働条件面で男女差をなくす	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	
	40.2	各33.0		24.1	19.6	
男性	10・20歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	退職女性の再雇用制度の充実	昇進や昇格の機会を均等にする	・労働条件面で男女差をなくす ・職業生活の相談窓口の充実 ・女性自身の意識を変える ・男性自身の意識を変える ・その他
		61.5	38.5	各30.8		各7.7
	30歳代	労働時間短縮や休日増加の推進	育児・介護休暇制度の普及、充実	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働条件面で男女差をなくす	・退職女性の再雇用制度の充実 ・昇進や昇格の機会を均等にする ・女性自身の意識を変える ・男性自身の意識を変える
		55.0	45.0	40.0	15.0	各10.0
	40歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	男性自身の意識を変える
		38.9	33.3	30.6	19.4	16.7
50歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働条件面で男女差をなくす	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	
	42.3	32.7	30.8	23.1	21.2	
60歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働条件面で男女差をなくす	労働時間短縮や休日増加の推進	退職女性の再雇用制度の充実	
	59.2	39.4	32.4	23.9	18.3	
70歳以上	保育・介護の施設やサービスの拡充	労働条件面で男女差をなくす	育児・介護休暇制度の普及、充実	労働時間短縮や休日増加の推進	昇進や昇格の機会を均等にする	
	44.5	33.6	32.0	21.9	18.0	

（複数回答）

性×年代別で見ると、男女共に30歳代を除く全世代で「保育・介護の施設やサービスの拡充」、30歳代では「労働時間の短縮や休日増加の促進」の割合が最も高くなっている。

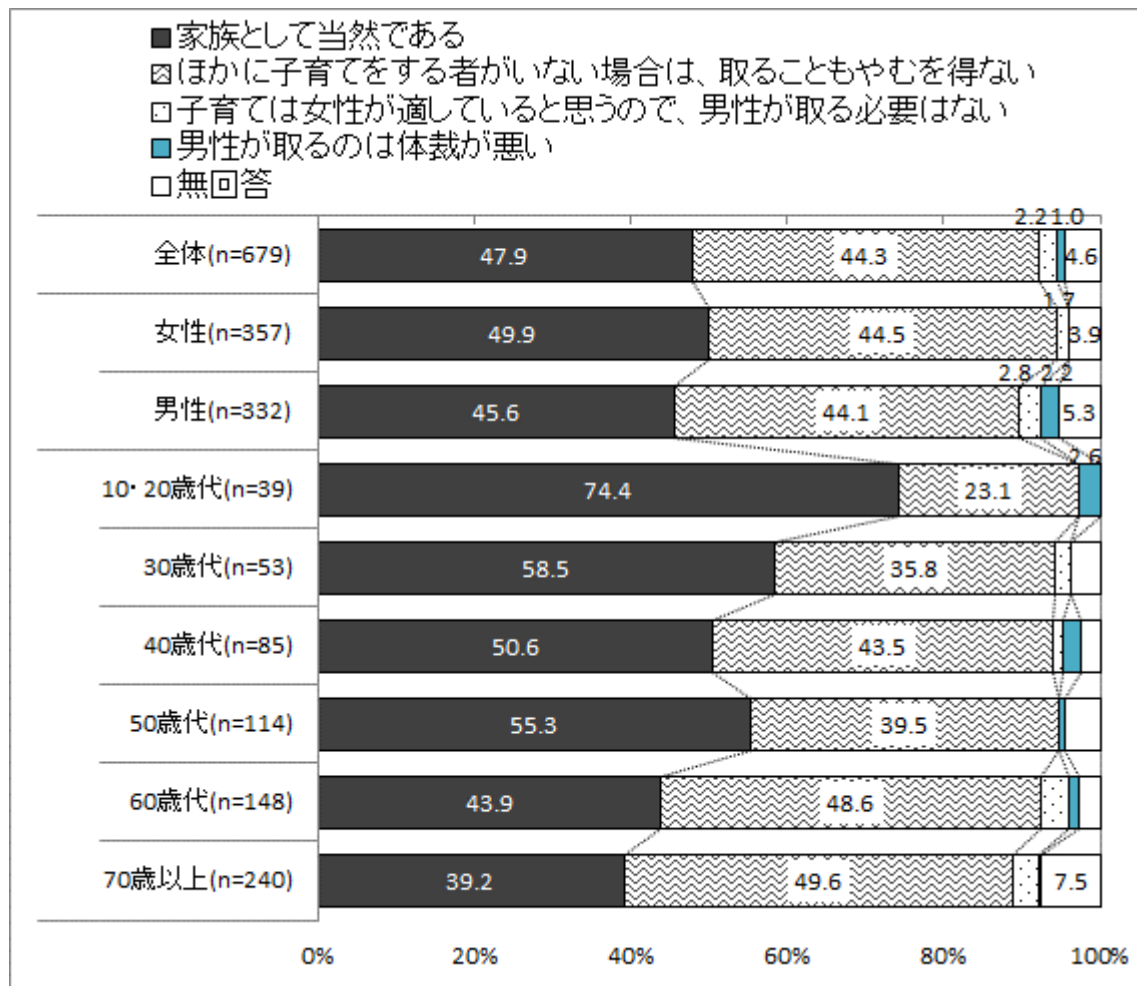
問14 男性が育児休業や介護休業を取ることにについて

あなたは、男性が育児休業や介護休業を取ることにについてどう思いますか。当てはまる項目を1つだけ選んで○をつけてください。

① 育児休業

⇒ 「家族として当然」が約48%、「やむを得ない」が約44%

男性が育児休業を取ることにについて（全体・性別・年代別） 単位（%）



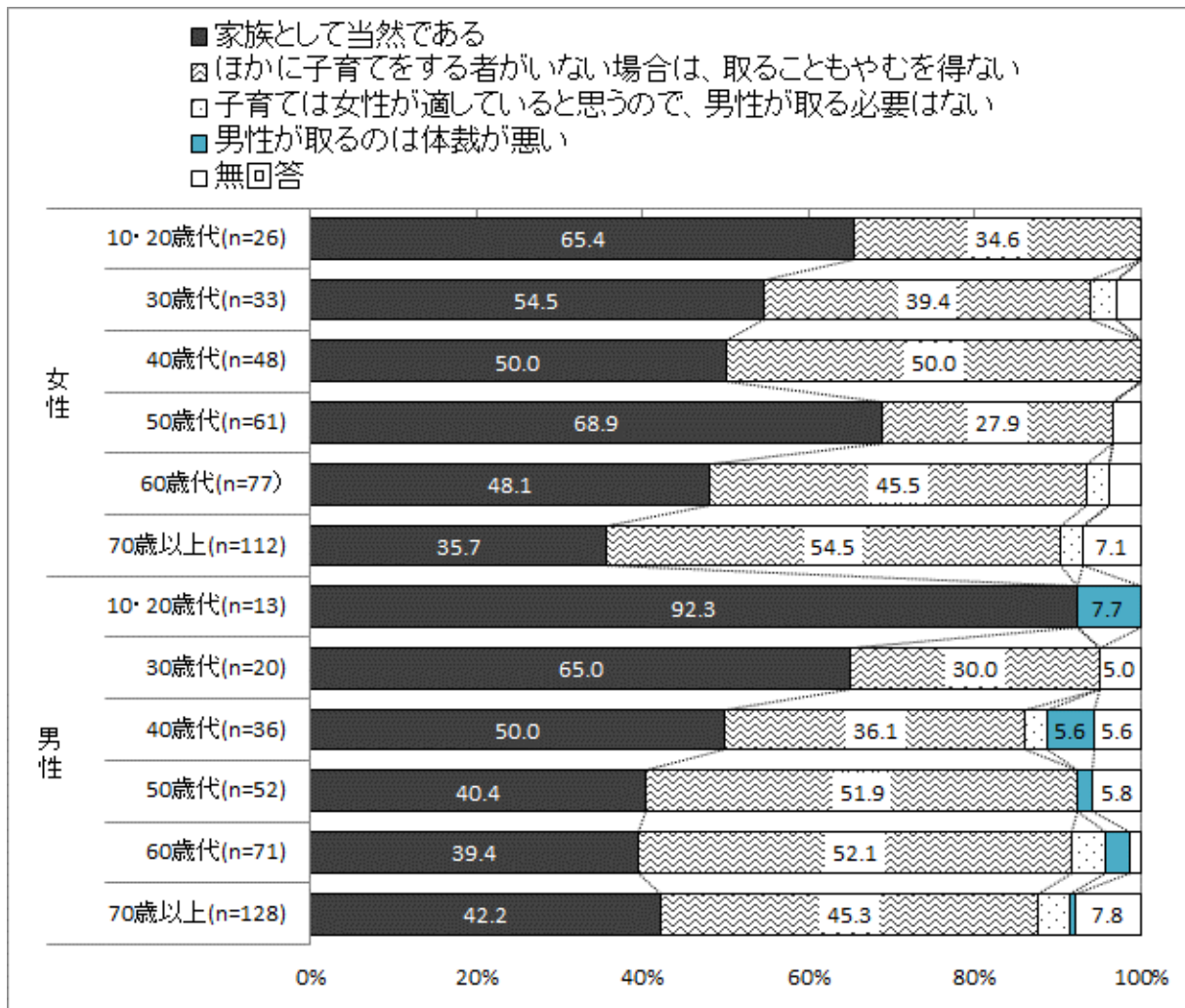
男性が育児休業を取ることにについて聞いたところ、全体では、「家族として当然である」の割合が47.9%、「ほかに子育てをする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」が44.3%、「子育ては女性が適しているので、男性がとる必要はない」が2.2%、「男性が取るのは体裁が悪い」が1.0%となっている。

性別で見ると、女性・男性ともに「家族として当然である」の割合が最も高く、次いで「ほかに子育てをする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」が続き、両方を合計した割合は、女性で94.4%、男性で89.7%となっている。

年代別で見ると、「家族として当然である」の割合は、50歳代までは最も高くなっているが、60歳以上では「やむを得ない」の割合の方が高くなっている。

男性が育児休業を取ることにについて（性×年代別）

単位（％）

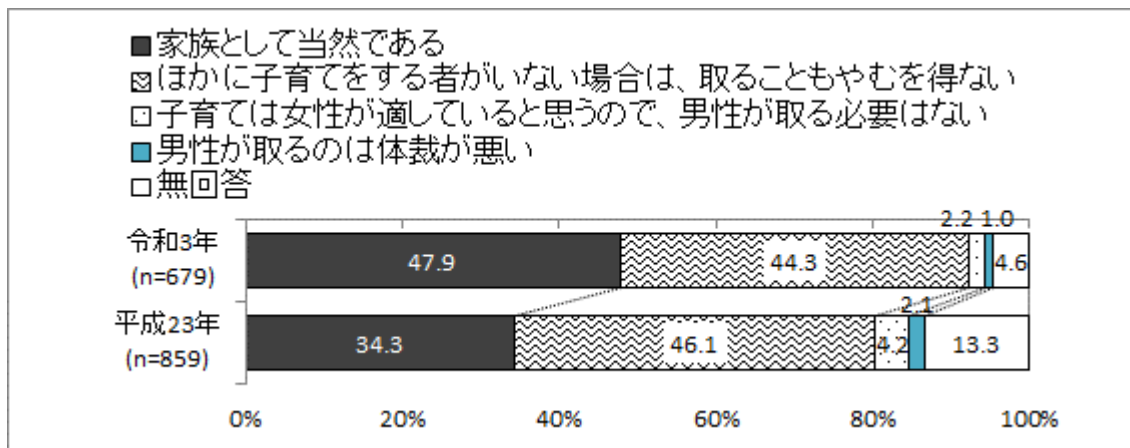


性×年代別で見ると、女性では、「家族として当然である」の割合は、10・20歳代、30歳代、50歳代で最も高くなっているが、40歳代では「ほかに子育てをする者がいない場合は取ることもやむを得ない」と同程度となっており、70歳以上ではこの割合が逆転している。

男性では、「家族として当然である」の割合は10・20歳代～40歳代で高く、50歳以上では「ほかに子育てをする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」の割合の方が高くなっている。

男性が育児休業を取ることにについて（前回調査との比較）

単位（％）

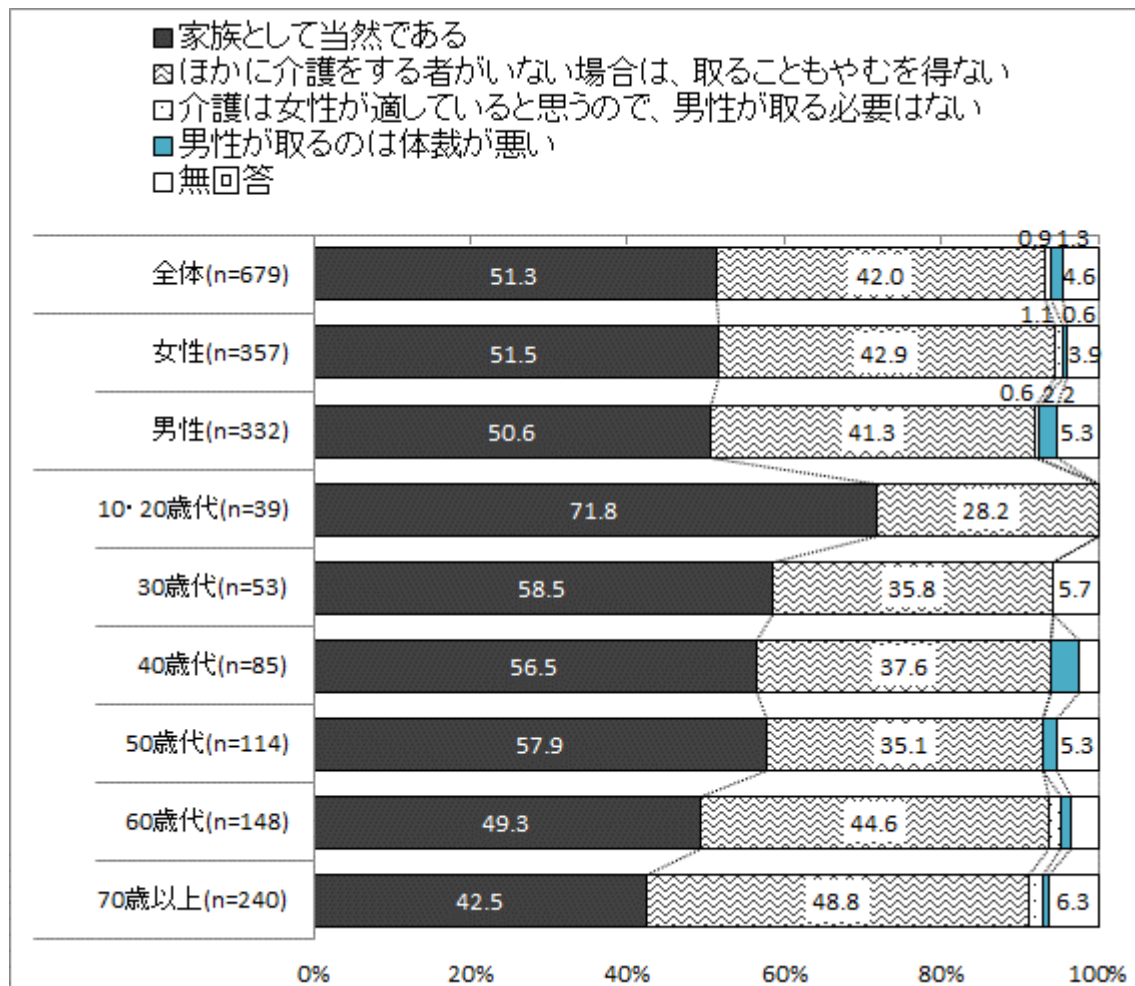


前回調査と比較すると、「家族として当然である」の割合が13.6ポイント増加し、「ほかに子育てをする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」の割合が1.8ポイント減少となっている。

② 介護休業

⇒ 「家族として当然」が約51%、「やむを得ない」が42.0%

男性が介護休業を取ることにについて（全体・性別・年代別） 単位（%）



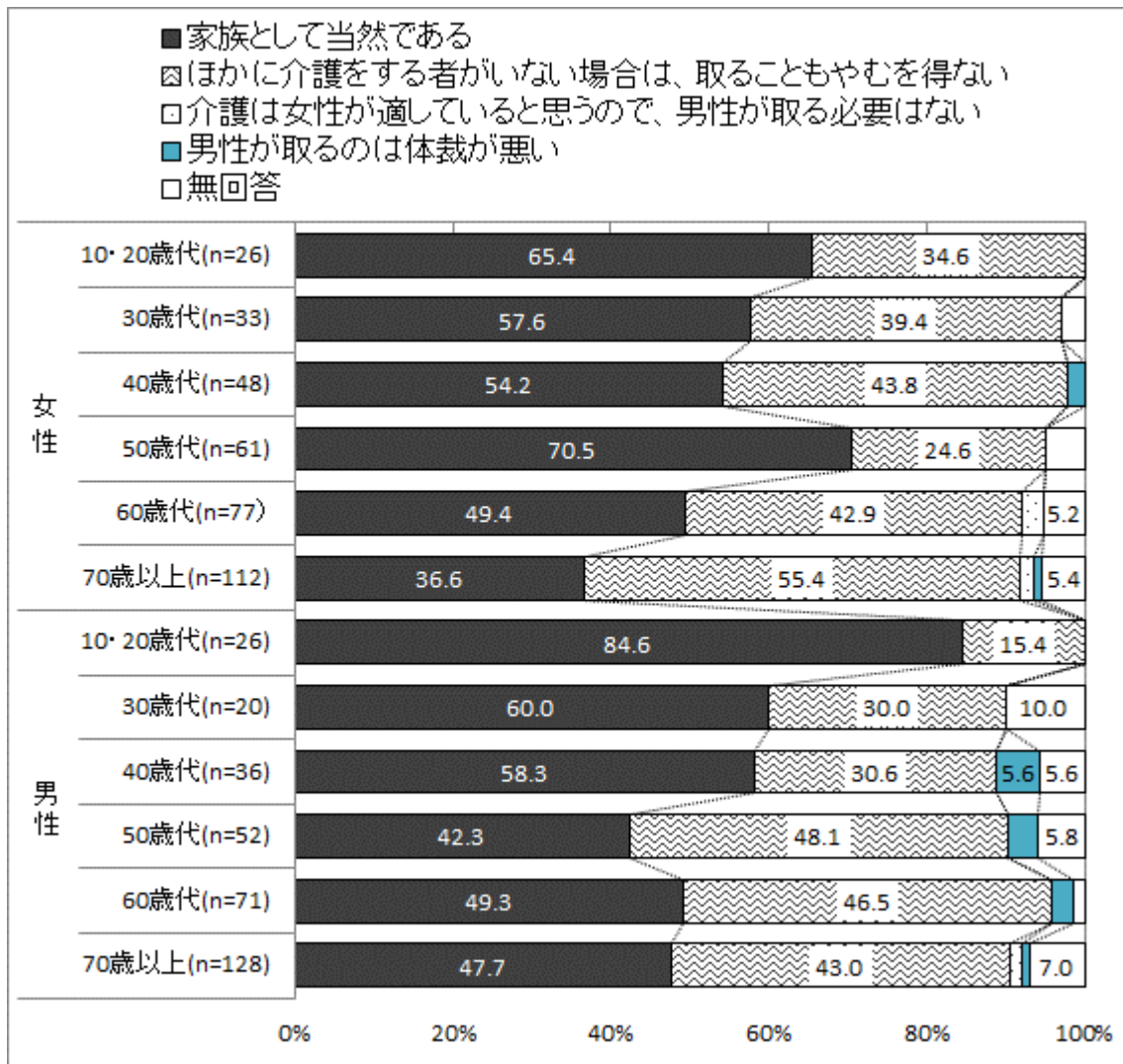
男性が介護休業を取ることにについて聞いたところ、全体では、「家族として当然である」の割合が51.3%、「ほかに介護をする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」が42.0%、「男性が取るのは体裁が悪い」が1.3%、「介護は女性が適していると思うので、男性が取る必要はない」が0.9%となっている。

性別で見ると、女性・男性それぞれの割合に余り違いは見られない。

年代別で見ると、70歳以上を除く各年代で「家族として当然である」の割合が最も高くなっているが、60歳以上では「ほかに介護をする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」の割合も高くなっている。

男性が介護休業を取ることにについて（性×年代別）

単位（％）

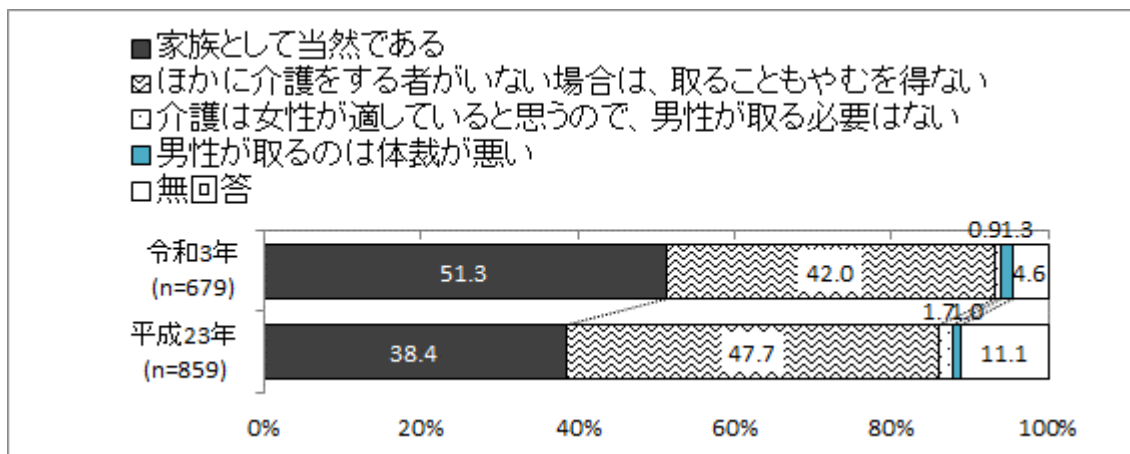


性×年代別で見ると、女性では、10・20歳代～60歳代で「家族として当然である」の割合が最も高くなっており、70歳以上では「ほかに介護をする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」の割合が最も高くなっている。

男性では、50歳代を除き「家族として当然である」の割合が最も高くなっているが、50歳以上では「ほかに介護をする者がいない場合は、やむを得ない」の割合も高くなっている。

男性が介護休業を取ることにについて（前回調査との比較）

単位（％）



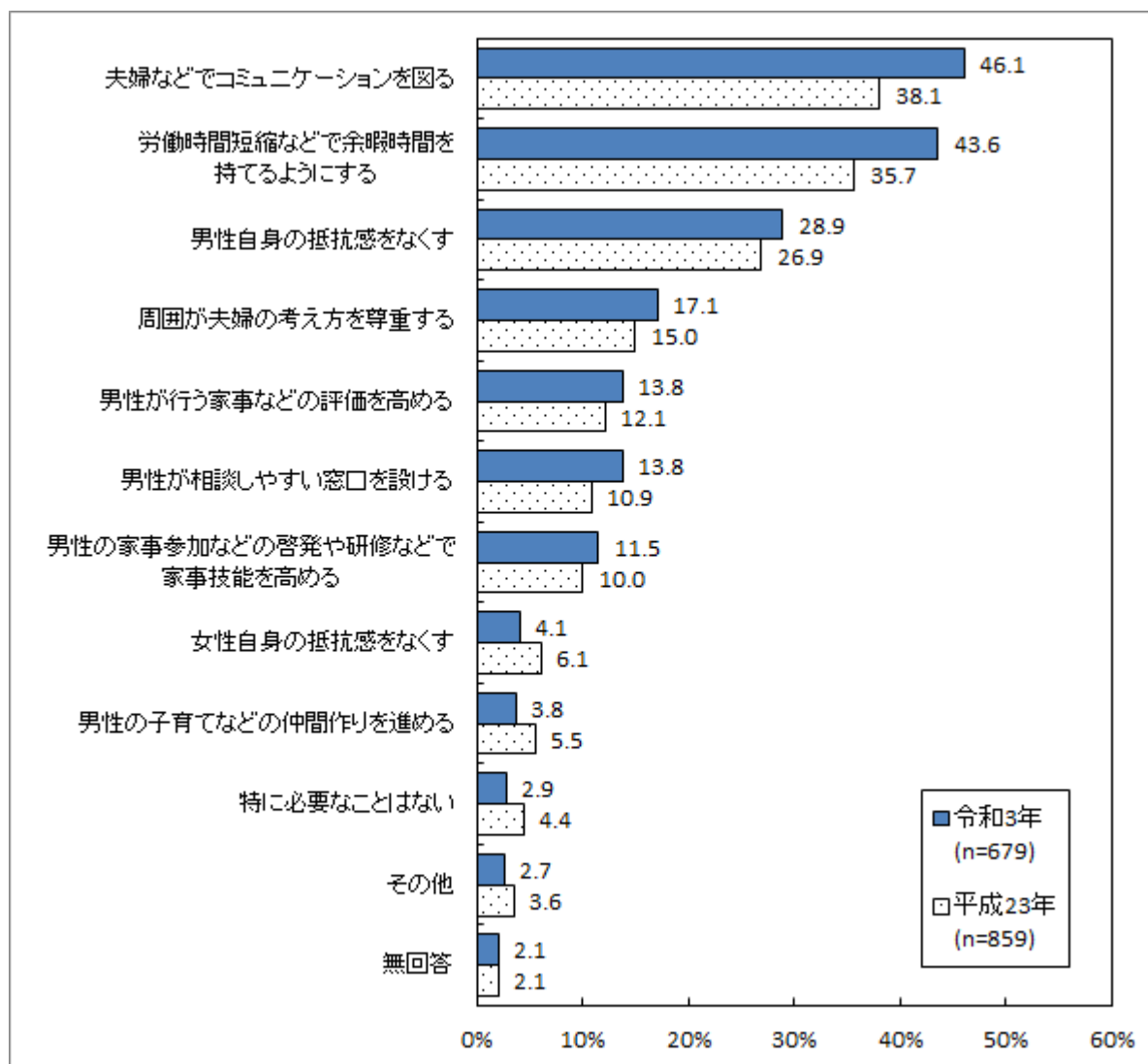
前回調査と比較すると、「家族として当然である」の割合が12.9ポイント増加し、「ほかに介護をする者がいない場合は、取ることもやむを得ない」の割合が5.7ポイント減少となっている。

問15 男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて（複数回答）

今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまる番号を2つまで選んで○をつけてください。

⇒ 「夫婦などでコミュニケーションを図る」「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」が上位。

男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて（全体） 単位（％）



（複数回答）

男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて聞いたところ、「夫婦などでコミュニケーションを図る」の割合が46.1%、次いで「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」が43.6%、「男性自身の抵抗感をなくす」が28.9%と続いている。

前回調査と比較すると、各項目の順位に変更はなく、傾向は変わっていない。

男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて

(全体・性別・年代別) 単位 (%)

	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	夫婦などでコミュニケーションを図る 46.1	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 43.8	男性自身の抵抗感をなくす 28.9	周囲が夫婦の考え方を尊重する 17.1	男性が行う家事などの評価を高める 13.8	
女性	夫婦などでコミュニケーションを図る 45.4	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 40.3	男性自身の抵抗感をなくす 31.1	周囲が夫婦の考え方を尊重する 20.2	男性が行う家事などの評価を高める 16.0	
男性	夫婦などでコミュニケーションを図る 47.2	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 46.9	男性自身の抵抗感をなくす 25.9	男性が相談しやすい窓口を設ける 14.1	周囲が夫婦の考え方を尊重する 13.8	
年代別	10・20歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 71.8	夫婦などでコミュニケーションを図る 28.2	周囲が夫婦の考え方を尊重する 25.6	男性自身の抵抗感をなくす 23.1	男性が行う家事などの評価を高める 20.5
	30歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 39.6	夫婦などでコミュニケーションを図る 35.8	男性自身の抵抗感をなくす 34.0	男性が行う家事などの評価を高める 22.6	周囲が夫婦の考え方を尊重する 18.9
	40歳代	男性自身の抵抗感をなくす 35.3	夫婦などでコミュニケーションを図る 32.9	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 29.4	男性が行う家事などの評価を高める 21.2	周囲が夫婦の考え方を尊重する 16.5
	50歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 51.8	夫婦などでコミュニケーションを図る 41.2	男性自身の抵抗感をなくす 32.5	男性が相談しやすい窓口を設ける 14.9	・周囲が夫婦の考え方を尊重する ・男性が行う家事などの評価を高める 各13.2
	60歳代	夫婦などでコミュニケーションを図る 53.4	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 50.0	男性自身の抵抗感をなくす 27.7	周囲が夫婦の考え方を尊重する 14.2	男性が行う家事などの評価を高める 12.8
	70歳以上	夫婦などでコミュニケーションを図る 53.8	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする 37.1	男性自身の抵抗感をなくす 25.4	周囲が夫婦の考え方を尊重する 19.2	男性が相談しやすい窓口を設ける 18.8

(複数回答)

性別で見ると、男女共に「夫婦などでコミュニケーションを図る」の割合が最も高くなっており、次に「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」となっている。

年代別で見ると、10・20～30歳代、50歳代では「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」、40歳代では「男性自身の抵抗感をなくす」、60歳以上では「夫婦などでコミュニケーションを図る」の割合が最も高くなっている。

男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて

(性×年代別) 単位 (%)

		1位	2位	3位	4位	5位
女性	10・20歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	周囲が夫婦の考え方を尊重する	男性自身の抵抗感をなくす	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性が行う家事などの評価を高める
		69.2	30.8	各23.1		
	30歳代	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性自身の抵抗感をなくす	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	男性が行う家事などの評価を高める	周囲が夫婦の考え方を尊重する
		39.4	36.4	30.3	24.2	21.2
	40歳代	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性自身の抵抗感をなくす	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	男性が行う家事などの評価を高める	周囲が夫婦の考え方を尊重する
		37.5	31.3	29.2	25.0	20.8
	50歳代	男性自身の抵抗感をなくす	夫婦などでコミュニケーションを図る	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	周囲が夫婦の考え方を尊重する	男性が行う家事などの評価を高める
	45.9	各37.7		21.3	19.7	
60歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性自身の抵抗感をなくす	周囲が夫婦の考え方を尊重する	男性が相談しやすい窓口を設ける	
	50.6	48.1	28.6	各14.3		
70歳以上	夫婦などでコミュニケーションを図る	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	男性自身の抵抗感をなくす	周囲が夫婦の考え方を尊重する	男性が相談しやすい窓口を設ける	
	58.0	35.7	25.0	20.5	17.9	
男性	10・20歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性自身の抵抗感をなくす	・女性自身の抵抗感をなくす ・周囲が夫婦の考え方を尊重する	男性が行う家事などの評価を高める
		76.9	38.5	23.1	各15.4	
	30歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	男性自身の抵抗感をなくす	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性が行う家事などの評価を高める	周囲が夫婦の考え方を尊重する
		55.0	30.0		20.0	15.0
	40歳代	男性自身の抵抗感をなくす	夫婦などでコミュニケーションを図る	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	女性自身の抵抗感をなくす	男性が行う家事などの評価を高める
		38.9	各27.8		19.4	16.7
	50歳代	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	夫婦などでコミュニケーションを図る	男性が相談しやすい窓口を設ける	男性自身の抵抗感をなくす	・男性が行う家事などの評価を高める ・特に必要なことはない ・その他
	67.3	46.2	17.3	15.4	各5.8	
60歳代	夫婦などでコミュニケーションを図る	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	男性自身の抵抗感をなくす	周囲が夫婦の考え方を尊重する	男性が行う家事などの評価を高める	
	59.2	49.3	26.8	14.1	12.7	
70歳以上	夫婦などでコミュニケーションを図る	労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする	男性自身の抵抗感をなくす	男性が相談しやすい窓口を設ける	周囲が夫婦の考え方を尊重する	
	50.0	38.8	25.8	19.5	18.0	

(複数回答)

性×年代別で見ると、女性では、10・20歳代、60歳代は「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」、30～40歳代、70歳以上は「夫婦などでコミュニケーションを図る」、50歳代は「男性自身の抵抗感をなくす」の割合が最も高くなっている。

男性では、10・20～30歳代、50歳代は「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」、40歳代は「男性自身の抵抗感をなくす」、60歳以上は「夫婦などでコミュニケーションを図る」の割合が最も高くなっている。